

教育用語辞典

「教育用語辞典」第27回です。今回は選択問題です。文中の「」に入る適当な言葉はどちらでしょうか。選んでみてください。

【家読】

【うちどく】

レベル★

一九八〇年代から全国に広まった「朝読」(A朝の読書 B朝から読書)の家庭版。家族で本を読んでコミュニケーションを図り、「家族の絆づくり」をすることを目的とする。方法に特にきまりはないが、「家族で『うちどくの日』を決める」「ノーテレビ・ノーゲームで行う」などを推奨している。もともとは「いえどく」と称していたが、「A家庭主体 B子ども主体」の運動であることと、言葉の響きを重視して「うちどく」と読ませるようになった。

【子ども読書の日】

【こどもよみしょのひ】

レベル★★★

二〇〇一年十二月に施行された「子ども読書の活動」(A発展 B推進)に関する法律」第十条により、「国民の間に広く子どもの読書活動についての関心と理解を深めるとともに、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高める」ことを目的として、「子ども読書の日は、四月二十三日とする」と定められている。この日には文部科学省等主催の「A子ども B児童」の読書活動推進フォーラム」が開催され、読書活動優秀実践団体等に文部科学大臣表彰が行われる。

【ビブリオバトル】

【びりおばとる】

レベル★★★★★

数人で集まり、各自がおすすめる本を【A五分間 B十分間】で紹介し、その後全員の投票によって「一番読みたくなった本(チャンプ本)」を決定する、知的【A批評 B書評】合戦。二〇〇七年に、京都大学情報学研究所共生システム論研究室の谷口忠大によって考案された。現在は公式ルールが定められ、聴講参加者を加えて開催規模も大きくなっている。二〇一〇年から「ビブリオバトル首都決戦」が開催され、全国各地の予選会を経た学生がしのぎを削る。



【解答】

【家読】 A B

【子ども読書の日】 B A

【ビブリオバトル】 A B